

2016年度事業報告書

事業概要

近隣での大型リサイクル店の相次ぐ開業、ブランド買取店の中古衣料受け入れ参入など、厳しい状況で迎えた2016年度でした。しかし、地域で寄付していただいたものは地域で販売する「地域内循環」の方針や、お買い物が支援につながることをアピールすることで、WEへの共感を高め、一日当たりの売り上げは昨年並みを維持することができました。

新規フェアトレード品の開拓や、支援事業の見直しなども、チャリティショップとしての価値を高めるためのチャレンジでした。

運営やボランティアの従事者は減ってしまった中でのスタートでしたが、共感と参加を広げるための種は、活動に参加するみんなで蒔くことができましたと思います。

事業報告

1. 資源のリユースリサイクルを推進する事業

運営委員会で立てた年間計画に沿って、事業を行い、さらに、季節や、寄付品の状況に合わせてフェアなどを行い、本年度売り上げ目標の達成を目指しました。一日当たりの売り上げは、ほぼ前年と同じでしたが、月曜休業や、寄付者減少などにより、目標を達成することができませんでした。

ショップという拠点を生かし、支援キャンペーン、チョコ募金などのスペースを設け、チャリティショップのアピールをしました。

実績	売り上げ	顧客数	ボランティア のべ(実人数)	寄付者(新規)
2015年度	6,576,845円	8,039人	966人(33)	2,176人(102)
2016年度	5,799,882円	7,109人	899人(21人)	1,744人(51)
対前年比	88%	88%	93%(63)	80%(50)

1) 企画

季節に応じて様々な企画を立て、常にショップでワクワクしながらお買い物をしていただけるよう、工夫をしました。特に学用品フェアは、30,40代の新たな年代層に関心を持ってもらうため、企画しました。今年度は、十分な品数を用意することができませんでしたが、終了後も品物の提供があるなど次年度に向けて手ごたえを感じました。

- 4月 アニバーサリーセール
- 5月 ガラス器フェア
- 6月 浴衣フェア
- 7月 夏のセール

- 8月 夏物一掃セール
- 9月 手芸品フェア、七五三フェア
- 10月 漆器・茶器フェア
- 11月 コートフェア、クリスマスフェア、お正月用品フェア
- 12月 冬のセール
- 1月 新春市、アクセサリーフェア
- 2月 着物フェア、ひな祭りフェア、冬物ミニセール
- 3月 学用品フェア、手芸品フェア

2) ボランティア

今年度ボランティア人数34名(含着用)。うち新規1名。ショップの掲示、ホームページ、チラシ等で募集をしましたがボランティアの拡大は1名にとどまりました。

2回のボランティアミーティングを開催して、ボランティア間の親睦を深めると共に、ショップの実務につながる研修を行いました。

8月8日 提供品を受け取る際の基準について 参加12名

1月16日 食器の受け取り・仕分け・値付けなど作業の流れ 参加10名

3) イベント

- ①3月5日 「3・11わすれない あったか復興支援イベント」(主催：NPO法人結ぶ)
こどもの輪投げ、物販などを企画し、その収益を全額東日本大震災支援に寄付しました。
また、WEショップ紹介のミニチラシとカードを購入者に配布し、アピールをしました。

4) 資源の有効活用

- ①他のWEショップやWE21ジャパンからのトレード品を活用しました。必要に応じて、他ショップへのトレードも実施し、協力して資源の有効利用に努めました。
- ②WE21ジャパングループの一員として今年度も、家庭での使用済み食用油の回収に取組み、「WE油田つづき」を継続しました。回収218Kg(前年350Kg)
- ③今年度も、故繊維業者「ナカノ」を通じて衣類のリサイクルに努め、同社が開発したエコ手袋を販売しました。ガラスリサイクル業者「飯室商店」を通じてガラス器のリサイクルにも努め、陶器についても「木村管工」を通じて、陶器のリサイクルを行いました。

【日時】 通年

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員5名、ボランティア34名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出費】 5,049,239円

2. アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業(民際支援事業)

1) 民際支援事業

- ①フィリピンのコーヒーの森づくり事業

助成団体：コーディネエラ・グリーン・ネットワーク

事業名 : フィリピン・ベンゲット州におけるアグロフォレストリー栽培によるコミュニティづくり (コロス集落・タビヨ集落の植樹地のメンテナンス)

助成金額 : 150,000 円

支援しているWE 2 1 グループメンバーとコーヒーの森支援連絡会を結成し、共同で点検評価を行うなど、情報共有や学びの場としました。

②カンボジアの幼児教育拡充事業

助成団体 : 特定非営利活動法人 幼い難民を考える会 (CYR)

事業名 : カンボジアの「公立地域幼稚園」の教材である絵本7種を製作する事業

助成金額 : 120,000 円

寄付額 : 11,500 円

「みんなで布チョッキン講座」を開催し、収益を寄付しました。
10月の支援先キャンペーンでは、織物を紹介・販売しました。

③チョコ募金

募金先 : 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

事業名 : イラク・福島の子どもたちとシリアの難民を支援するための募金

募金額 : 90,930 円

④熊本地震緊急募金

募金先 : ADRA JAPAN

募金額 : 43,732 円

2) 東日本震災支援

福島県いわき市における食品、水、土、人体の放射能測定事業

助成団体 : 特定非営利活動法人 いわき放射能市民測定室たらちね

事業名 : 事業全体への活動資金

寄付金 : 30,000 円

助成金および募金の総額

	寄付金・助成金	募金
フィリピン コーヒーの森づくり事業	150,000 円	
カンボジア 幼児教育拡充事業	120,000 円	
布チョッキン講座		11,500 円
いわき市の放射能市民測定活動事業	30,000 円	
チョコ募金		90,930 円
熊本地震		43,732 円
合計	300,000 円	146,162 円

3) 民際収益事業

フェアトレード品の販売を通じ、現地のひとたちの自立支援に協力しました。

2016年度は、これまでのコーヒーやジンジャーティなどに加えて、新たにオリーブ石鹸と

刺繍入りタオルを導入しました。紛争が続くパレスチナや、経済発展の陰にあるマニラの貧困地域の女性たちに仕事を作り収入を向上させることを目指している商品です。パネルを展示し困難な状況においても頑張っている人々の姿を伝え、お買い物が支援につながることを実感していただけるよう努めました。

製品	支援団体	仕入額
「カピタコ」 コーヒー	コーディリエラ・グリーン・ネットワーク (CGN)	16,125 円
ジンジャーティ	ウバパス/ダイヨコン/ランパダ/シュントック財団	22,500 円
オリーブ石鹼等オリーブ製品	合同会社パレスチナオリーブ	35,101 円
刺繍入りタオル	ソルト・パヤタス	24,464 円
カンボジア伝統の織物を使った小物	幼い難民を考える会 (CYR)	19,928 円

【日時】 通年

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員 5名

【受益対象者】 福島・熊本の市民、アジア等の市民

【事業支出額】 575,291 円

3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業（共育活動）

1) 民際支援や環境について理解を深める場として「WE 講座」を開催しました。

第1回支援講座 「みんなで布チョッキン講座」

カンボジアの保育園で使うぬいぐるみの生地を裁断するワークショップを開催し、12体分のキットを、活動募金とともに送りました。

日時：5月22日（日）

場所：かけはし都筑

講師：鎌田苑子 幼い難民を考える会 (CYR)

参加：12名

第1回リメイク講座 「ネクタイで作るネックレス」

いただいた寄付品の有効活用と、手仕事の楽しさを伝えるため、今年度よりリメイク講座を始めました。

日時：11月12日（土）

場所：かけはし都筑

講師：土井ひとみ、松浪悦子

参加：7名

第2回リメイク講座 「和布で作るうさぎのお雛様」

日時：2月23日（火）

場所：かけはし都筑

講師：松浪悦子、土井ひとみ

参加：6名

2) 支援キャンペーンを行いました。

10月11日～15日「世界につながるお買い物」をテーマに、フェアトレード品と、その生産者の紹介を行いました。ジンジャーティとコーヒーの試飲、パレスチナのハーブミックスの試食を用意したり、生産者の状況をパネルで展示したりして、現地の様子を伝えました。

期間中のフェアトレード売上額 62,410円

3) コーヒーの森事業モニタリングツアーにメンバーを派遣し、現地の受益者にインタビューし、事業の進捗状況、住民組織の状況などを調査し、支援決定や、広報に活かしました。

4) 地域のイベントに参加しWE21 ジャパン都筑の活動を紹介するとともに、地域との交流を深めました。

①「3. 11 忘れない あったか復興支援」 NPO法人結ぶ主催に参加しました。

2月26日(日) 講演会「福島のとこれから」被災地からの報告と交流

3月4日(土) アニメ映画「無念」上映と被災者の声、音楽の調べ

3月5日(日) センター北駅前広場でのイベント輪投げとリサイクル販売をし、当日の売り上げ10,660円を「たらちね」への寄付としました

5) WE21 グループメンバーとともに講座、研修等を共同企画しました。

①CGNスタッフ招へい事業

コーヒーの森事業のスタッフ リリーさんの日本滞在にあたり、コーヒーの森事業支援連絡会で招へいし、現地の様子を共有しました。都筑でも報告会を開催し、今年度の事業の様子などを聞き、リリーさんの人柄に触れることができました。

10月8日(土)

場所：区民活動センター

参加：10名

②いわき放射能市民測定室「たらちね」報告会

福島県いわき市で、東日本大震災後、市民による放射能測定室を立ち上げた「たらちね」の事業について報告会を青葉・みどり、こうほく、つるみが共同開催し、都筑も資金の一部を提供し、協力しました。

2月25日(土)

場所：ハーモニーみどり(緑区)

参加：49名

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員5名、ボランティア5名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 72,082円

4. 法人の事業の広報普及を図る事業(広報活動)

1) WE21 ジャパン都筑ニュースを発行し、WE21 ジャパン都筑の活動を紹介しました。

紙面をカラー化して、読みやすくし、ショップに足を運んでもらうきっかけになるように工夫しました。

発行 3 回 4 月 250 部 支援先紹介、WE 講座報告
 9 月 5000 部 支援キャンペーン（ボランティア配布）
 1 月 5000 部 着物フェア（ボランティア配布）
 1200 部 生活クラブ都筑コモンズ組合員に配布

2) セールやフェアのチラシを作成し、地域に配布しました。

アニバーサリーセール 6000 部 （ボランティア配布）
夏セール 500 部 （周辺地域）
冬セール 500 部 （周辺地域）
寄付募集 1000 部 （新聞折り込み・周辺配布）

3) ミニコミ紙や新聞折り込みを活用し、より多くの人に情報を提供しました。

ミニコミ紙にフェア、セールの告知記事を掲載しました（計 3 回）。

新聞折込広告は、新たな地域を考慮しながら依頼しました（計 1 回）

第 2 回リメイク講座がタウンニュースの取材を受け、掲載されました。

4) HP を一部改訂し、より見やすく、わかりやすい内容にしました。

ショップ情報や、イベント等のお知らせをのせ、活用しました。

5) 区民活動センターやかけはし都筑の情報コーナーを活用し、寄付品提供やボランティア募集を行いました。

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員 5 名、ボランティア 15 名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 165,700 円

組織活動

1) 組織運営

組織事務局に関しては運営委員会で手分けし、行いました。次に引き継ぐことを考慮して、できるだけマニュアルを作成し、スムーズな運営を心がけました。今年度より、会計や、事務手続きの一部を業務委託し、円滑な運営ができるようにしました。

2) 会員

正会員 3 月末会員 32 名 退会 1 名、賛助会員への変更 2 名

賛助会員 1 団体、3 名

3) WE 21 ジャパングループのネットワークを活かし、運営に役立てました。

①WE21 ジャパングループ会議への参加（年 4 回）

②研修、講座等への参加

5 月 平和講座

6 月 基礎研修

9 月 コーヒーの森 JICA 事業報告会

③WE 21 ジャパングループの地域 NPO との連携

10 月 WE フェスタ秋への参加

1月 WE21 グループ会議企画 横浜北地域合同
新春の集い参加

2月 横浜北地域合同「放射能測定室 たらちね」報告会

3月 WE フェスタ春実行委員会への参加

4) 研修生の受け入れを行い、WE ショップでの作業を通じて環境や、海外支援について学んでもらいました。

8月 つづき MY プラザ はあと de ボランティア 4名

9月 荏田南中学校 職業体験研修 2名

5) 就労支援の受け入れを3名行いました。

2016年1月より、横浜市の就労支援事業の受け入れを行いました。

6) 都筑区内の生活クラブ運動グループのW. C oやNPOで作る「都筑相談窓口」にオブザーバー参加し、共同学習会や、お互いの活動の共有、連携の仕組みを学びました。

7) 地域通貨「リーフ」を活用し、地域のボランティア活動を応援しました。

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員 5名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 155,940円